

市の考えを問う 一般質問

12月13日・14日・15日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。




一本松駅南側

Q 地域未来投資促進法と農大周辺整備

山中 基充 議員

A 農業大学校跡地の活用を起爆剤として地域の振興を図る



問 一本松駅の整備に関する市長の考え方について。

答 南口駅前交通広場の整備と連携した南口開設とバリアフリー化の一体的な整備に向け、引き続き積極的に取り組んでいく。

問 鉄道事業者との協議状況は。

答 市は、南口駅前広場の整備と連携した南口開設とバリアフリー化の一体的な整備を考えているが、東武鉄道株式会社は、バリアフリー化整備を先行したい意向であるため、引き続き調整していく。

問 具体的なバリアフリー化整備について。

答 現行の駅舎を基に整備する場合、上り・下り線それぞれのホームにエレベーターを一基ずつ、それらを繋ぐ跨線橋、北側改札口の段差解消用エレベーター、障害者対応トイレの設置が必要となる。

問 バリアフリー化と南口開設の

問 問題点について。

答 東武鉄道は、将来の駅舎等の整備を見据え、二重投資にならない形で先行的にバリアフリー化整備をしたいとの意向もあるため、協議・調整している。

◎その他の質問

- 一 農大跡地活用及び周辺整備
- 二 台風やゲリラ豪雨の水害対策

問 埼玉県は、同県議会自由民主党議員団による県西部地域への未来産業集積による産業振興案について、県と方向性が一致するとして、いわゆる地域未来投資促進法を活用した振興案に賛同の意思を表明した。同法の規定により市が作成する基本計画の概要と農業大学校跡地等への市の取組は。

答 県や関係市町とともに、鶴ヶ島JCT周辺10キロメートル圏内の13市町

を促進区域とする基本計画を作成している。まずは農業大学校跡地に経済効果の大きい先端産業等を立地させることを強力に推進し、その後、9つのインターチェンジ周辺に優良な産業用地を計画的に創出して先端産業等の更なる立地を目指す。市では、アクセス道路の早期の整備を目指していく。

問 13市町がライバルとなる。市として、企業への強力な広報や誘致策等を推進すべきではないか。

答 基本計画は、県と13市町が共同で作成したものであることから広報についても県と13市町で連携して考える。また、農業大学校跡地以外の産業用地の創出も検討したい。

◎その他の質問

- 一 所有者不明土地の実態は
- 二 期日前投票の積極的な取組を
- 三 鶴中校庭の水はけの改善を

Q 一本松駅のバリアフリー化等整備

内野 嘉広 議員



A 東武鉄道株式会社と協議・調整していく



埼玉県農業大学校跡地周辺